

## 感想・メッセージ

### 中道親昭先生：私の臨床医としての歩み

- ・ 中道先生の現在に至るまでの道のりについてお話いただき、自分の将来の進路を考える上で、とても参考になりました。
- ・ 長崎大学の中だけでも地域医療関係の教室が複数あり、学生はそれぞれの違いや活動を詳しく知らず、最大限に活用できていない気がします。個人、病院、地域に自分の力量にあわせ関わっていけるよう努力しいこうと思います。
- ・ 今、医学部5年生で、自分の将来に対してたくさんの不安や迷いがある中で、中道先生のお話は、今後自分がどういう風になっていけばいいか、モデルを教わることができたと思います。
- ・ 先生の話聞きまして、常に自分は何をできるようになったか、考えることが大切ということに気付きました。ありがとうございました。
- ・ 医学修学生の自分にとってその先輩である中道先生のお話は卒後の研修を考える上で、とても参考になった。学生にとって卒後の研修をどうするかということは、大問題で誰も頭を悩ますことなので、先生がどうしてきたかを聞くことができて良い機会だった。
- ・ フライトドクターという専門性の高い分野ので、活躍されている過程で離島での地域医療の経験が大きく占めていると分かりました。離島ではスキルが得られないと感じる若い医師が多い中で総合医を学べる利点をもっと伝えていってほしいと思いました。

### 小野隆司先生：離島が育てた総合医が地域医療の再生を担う！

- ・ 離島において、医療を行う上での様々な問題点を知ることができた。医療現場の背景には、医療スタッフや病院同士の関係、市町村などの行政事情など、様々な要素が関係していることがわかった。
- ・ 子宝に恵まれた島で産科、小児科が不足しているのが勿体無い気がしました。医師が働く場を選ぶときの項目で症例数というのは上位にきている。調査がよく目にとまるので、症例数をうりにして医師を募集してみると来てくださる産婦人科・小児科医がいるのではないかと思います。
- ・ 毎年、小野先生のお話を聞かせて頂いています。小野先生のお話からは、少ない医療資源の中で常に前向きに問題に向き合ってきた方の凄みのようなものを感じます。今年も大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 徳之島の深刻な医師不足、メディカルスタッフの不足が心に残りました。小さな声を集めて社会運動にするというのは本当に大変だと思いますが、誰かがしないとイケないと思います。離島だけではなく本土も、日本全体がこれから良くなっていくといいなと思います。お話ありがとうございました。

- ・ 徳之島の徳州会病院のお話で、とても興味深かった。徳之島の地理的条件上、長崎の離島とはまた違った苦労や困難があることが分かった。講演後の質疑応答のときにも話題になったが、安定した離島医療を継続するには短期でかわるがわる赴任するシステムが必要だと思った。
- ・ 離島へき地で総合医として、地域住民をよりそった医療と展開していくには、やはり長くいてくれる医師が求められていると思います。これは住民の願いであり、自分のこと家庭のことを知っている医師がいるというだけで安心感につながるのではないかと感じました。小野先生が提示されていました「できるだけいてくれる医師」も増えていく事を期待します。

#### 濱田勉先生：離島診療所からの提言

- ・ 度島の存在すら知らなかった状態ですが、本当にDr.コトーのような島の医療にとっても魅力を感じました。度島ならではの医療事情や生活の様子を知ることができ、とても興味深かったです。
- ・ 公共の施設が学校と郵便局と診療所しかないという話で見方によっては、この3つの施設は地域のニーズとしての優先度の高さを感じました。一人の診療所は患者の入り口あると共に「Dr.コトー」が興味をもったきっかけである自分にとっては離島医療への入り口なので、自分も携わっていきたいです。
- ・ 生き生きとした臨場感に溢れた、しかもユーモアにも溢れた楽しいお話で、地域医療をやってみたい、という気持ちになりました。離島での医療の魅力と不安な点、問題点が良くわかりました。
- ・ 専門医としてバリバリ働いた後の残りの医師としての1つの仕事の形、恩返しを教えていただいて、非常に勉強になりました。
- ・ 離島ではできなくなってしまった、本来の温かい医療の形を考え直すことができました。一般診療を再研修できる仕組み絶対に必要であり、良い仕組みが早急にできるべきだと思う。
- ・ 人口850人という小さな離島での医療活動のお話はとても新鮮で興味深いものだった。同じ離島での医療活動のお話はとても新鮮で興味深いものだった。同じ離島でも対馬や五島とはまた違った、より密度が濃く「離島医療」とは言っても様々な形があり、一概には語れないものだと感じた。お話の中でも先生が今、感じていらっしゃるやりのやりのが、とても印象深く魅力的だと思った。
- ・ とても楽しく、日々の活動、診療の様子を知ることができました。印象深かったのは、評価を直接受けるということ。良いことも、悪いこともすべてを受け入れることは人としての器が小さくないとなかなか難しいと思います。しかし、住民のあたたかい受けとめ、受容があるからこそ1人体制の医療が成り立っているのだなあと感じました。

## 金丸吉昌先生：市民応援団と総合医

- ・ 地域医療を守るために、市民と行政に働きかけ、制度や体制を整えるということが、いかに大きな力になるかということを知ることができました。
- ・ 保健師の採用に際し、看護師として1年間働いてもらうというやり方が、とても興味深かったです。他の職種の方の仕事の内容を知っているというのを実際に自分でやっているというのでは雲泥の差があることとお話を聞いて感じることができました。
- ・ 行政に入って、地域を変えていくことの大切さ、世論（市民大応援団）を変えていけば、訴訟問題も解決する、という方向性がとても良くわかり、勇気付けられる思いでした。
- ・ 人と人のつながりを地域医療では、よくみることができいいですね。地域の人達とよい関係を築き、楽しく将来働きたいと思いました。
- ・ 総合医について考えさせられる講演だった。僻地で医療を行うには、やはり住民と触れ合うことが大事だと思った。地域医療の発展、総合医の確立には市民応援団の存在がいかに重要かが分かった。
- ・ とても興味深く、身近に感じながら聴講させていただきました。保健師の視点をもった行政職員、医師はなかなかいない現状です。そんな中で地域に出向き、議会に出席し、住民へポピュレーションアプローチをして住民のために医療を守ろうとする姿が印象的でした。

## 訪問実習体験の感想

### 訪問診療

- ・ 観ることの大切さを学んだ。筋の萎縮、認知症の状態、家族の様子。Nsの方が、血圧を計るのが速くてびっくりした。自分が計るより10倍速い。中桶先生のMMTが楽しそうだった。腕ずもうをして遊んでいるかのようなだったが、診断のための技術をコミュニケーションの道具ともなりうるし、治療にもなりうるんだな、と感じました。肌がきれいですね、という一言から家族の入浴ケアの行き届いていることを褒められる、という中桶先生の配慮の力に心打たれました。
- ・ 診察室では見れない患者さんの生活環境が見える。ENT時に設定されたADLの評価が、正確なのかの再考が可能になる。薬剤師の視点で、気がかりな点をご家族に確認できることで、経過をフォローできる。医師と直接、対話しながら処方について検討できる。（病院の規模によっては医師の顔も知らない場合もあるため）病態を目で見て理解できる。（薬剤師は教科書上でしか、病態を知らないため）患者さんの手をにぎる、背中をさする等、ちょっとしたスキンシップをはかることで、患者さんの心がほぐれ、話してくれることで、診察室で得られる何倍の情報を得られる。家族の方々の患者さんに対する思いや、接し方が理解でき、協力を得られやすくなる。
- ・ 高齢の方は、訪問診療を本当に楽しみにしているということが、一番印象に残

りました。医療者が訪問する際は、医療者ではなく、1人の客人（或いは友人）のような感覚で迎えていらっしやて、先生方もフランクに日常会話をして、その中でも、しっかりと所見、問診をとっていらっしやったことに非常に驚きました。地域医療に密着させていただいたのは、初めてでしたが、面白いと感じられたのが一番の収穫です。

#### 訪問看護

- ・ 医師だけではできない点をカバーしているというところに印象を受けました。医師が行う訪問診療を有意義にするために、また1回の訪問を最大限に活用するようにカバーしているのが、看護の役割なのかな、とも実感しました。服薬の管理、病状経過の観察、一緒に住んで、サポートしている人からの意見も大事だと感じた。また、訪問診療と訪問リハに行った方々の話を聞いて、全体的に感じたのは、患者さんの話を聞いてあげるのが大切だということ、病院で行われる診療とは全く違う形なんだということです。こんなに話を聞いてあげる形は他にない、となると全く動けない方々のことを考えると一番いい形なのではないかな、と思いました。初めて訪問診療に行きましたが、もっと行ってみたいと思いました。
- ・ 患者さんの在宅での生活は、訪問診療、看護、リハ、ケアマネージャーなど様々なスタッフに支えられていることがわかりました。訪問診療では、服薬管理、バイタルチェック、病状観察などを行いましたが、それよりも一番大事なことは、患者さんのお話を聞くことだと思いました。不安が強い患者さんの所には、1週間に1回は誰か（医師、看護師、ケアマネさん）が行くようにしている、というようなお話を聞き、そういう要素でも訪問の数が決まるということがあることもわかりました。患者さんのありのままの生活の姿が見れるのが訪問の一番の良い所だと感じました。
- ・ 訪問診療は、患者さんが家で過ごせる反面、家族の負担が大きいというイメージでしたが、今回訪問したご自宅は、奥さんが「入院していると病院と自宅を行ったり、来たりしないといけなかったけど、在宅だと家で世話ができるからいい」とおっしゃってたのが、とても印象的でした。また、実際に自宅の様子を見て、患者さんの生活がどんな感じなのかを知ることができるのは、訪問することの良い点だと思いました。奥さんが最後はずっと、お話をしてくださったのですが、話を聞くだけで、いろんな情報を知ることができました。また、最初は緊張していたのですが、話しているうちに自然と笑うことができ、とても楽しかったです。
- ・ チーム医療のかたまり。医者よりももっと他の職種が、頑張っってそれを医者がささえるイメージ
- ・ 患者さんや、そのご家族である介護者の方々の不安や、苦痛を軽減し、疾病に罹患される前の日常に少しでも近い生活を送って頂くためのお手伝いを、多面的に行っていくための一手段であると実感できました。訪問診療、看護、リハビリを多重的に、疾患を持つ患者さんにご家族をサポートする事が、より良い医療の実現に寄与しているのだと学ぶ事ができて、良かったです。

### 訪問リハ

- ・ 患者さんとの心理的な面での関係は診療、看護、介護、リハビリのいずれにおいても大きな違いはなく、患者さんとその家族がその場の中心となり、リラックスして素を垣間見ることができたように感じた。また、より具体的な患者さんの環境に即した提案を出すことができていると思った。
- ・ 訪問リハの目的としては、筋肉の収縮を防ぐ。その人に今できる段階を考え、一緒に練習するということの他に、継続的に家族の様子、動向を見守り、家族と介護側の役割のふりわけをしていくことも真の目的なのかと思いました。